虚子記念文学館投句特選句・令和二年四月

稲畑汀子　選

見てくるる人無き花の淋しげに　兵庫　小杉伸一路

野に放つ春愁の歩の軽さかな　香川　大山孝子

一年を元気に生きて花に逢ふ　兵庫　池田雅かず

春灯に虚子館展示新しく　兵庫　玉手のり子

春の蚊に敏き妻の手妻の耳　兵庫　岩水ひとみ

初蛙など聞こえざる街を生く　神奈川　進藤剛至

うららかと皆言ひたくて待ち侘びぬ　兵庫　森岡喜惠子

霜くすべぶどうハウスの夜を徹す　石川　辰巳昌彦

鎌倉も芦屋も行けぬ春惜む　石川　辰巳葉流

九年目も人無き町に桜満つ　神奈川　孤舟

入選句・令和二年四月

花鳥語零してひかり零しをり　京都　杉森大介

アンダンテハナドリカナデルアイノウタ　東京　三球

滴落つ湯気の彼方に春の富士　東京　士々

三代の句碑それぞれの春を詠む　香川　三宅久美子